明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可 (日刊) 月曜及祭日の翌日休刊 明治四十二年一月七日 (木曜日) 第三號 (一)

京城新報

元旦の所感

不言生

余や昨末より胃腸問題に苦心し心ならずも多くの知友に欠禮をのみ重ねたり四十二年乾坤一轉と共に我が心機亦一轉すされど一轉も半轉もせざるものは尚は胃腸の問題なり生産的學術を修めざる我徒にありては當然のことなれども顔回を氣取りて餘喘を送らんはあまり馬鹿ばかし去れば冒險を試みて父祖の遺産に醉生夢死せんものを嗤はんか吾人の祖先は吾人に好模範を示せり日本書紀に素盞嗚尊は其子五十猛の神を帥ひて新羅の國に到り曾尸茂利の所に居玉へりと蓋此曾尸茂利は江原道春川府の牛頭山なり其他姓氏錄や古事記を見るに彦波瀲武鸕鶿草葺不合尊の御子稻氷命は新羅國王の祖となりたまへること明なり尚は韓史に記載する赫居世なる居西干を輔けたりし瓠公は日本人なり其韓國に渡來するや舟の沈沒を防ぐ爲瓠を多く結び付けたるより命名せしものなり而して其赫居世の子、次々雄を輔け內助の功ありたる妃、閼英なる昔脫解も日本人なり又御間城入彦天皇(崇神)の御代に鹽乘津彦勳を率じて任那を鎭守せし如き垂仁天皇の御宇に多遲摩毛理が常世國に橘菓を求めたるが如き少彦名神が常世の神農氏となりたる如き八心思兼の命が常世の長鳴鳥を集めたる如き息長帶日賣命(神功皇后)の三韓征服の如き豐太閤の太明討伐の爲め道を朝鮮に籍りたる如き皆吾人の好模範を示せるなり尚ほ口碑に傳はる錢屋五平の如き呂宋助左衛門の如き山田長政の如き宗教家として日持上人の如き眞如法親王の如き近くば我友河口慧海の西藏探險の如き此大和民族にあつて此遠征を試み島國的根性を脫却せしめたり余や魯鈍當らずと雖も異日時を得ば長程萬里內蒙古外蒙古はてはアフカニスタン、ヘルジスタン等の探險を試み聊か帝國前途の發展に資せんと欲す敢て所感を記す

僕の新年

かへで

一 日

四十一年最後の雪は、淡く名殘を積んで融けもやらず、北風來りて見舞ふ。

アイ君寢床の中よりお目出度うと云ふ、僕も亦床にてお目出度うと應ず。無性ものゝ元日は斯くして迎へられぬ。

九時より、屠蘇を飲み、酒又酒を離して牛飲に醉ひ、膳の片ッ端より馬食して、腹のふくらみし頃、金東允氏來る、日本人の御馳走は、朝鮮サラミのお齒には叶ふまじと揶揄すれば、氏、拔らず僕は何んでもやるよと笑ふ。

金氏去りて、元朝鮮新報の山内兄來賀す、氏將來の理想を語りて、中々に盡きず、一年の計は元日にありとかの世の諺、元旦匆々にして愚痴を溢せる僕等は、遂に愚痴を以て了らざる可らざるかと笑へば、山內兄、人間は到底愚痴の生涯よさ、眞面目に答ふ、

二時過ぎ山内兄歸りてより、又間ひ來る人もなし、僕は甚だしき頭痛に堪へずなりて、頭をかゝへて炬燵の中にもぐり込む、眼覺むれば、アイ君ランプの下、火鉢に凭りかゝりて雜誌朝鮮を讀てありき。

二 日

今日は初荷の日なり、市中の賑もさぞやと思ひしに、朝鮮のお正月には、そんな氣のきいたものはないとのアイ君の言葉に急に外出も厭になり、又酒を仰つて正午に及ぶ。

炬燵に仰向となり、心地克く高鼾に眠るアイ君に搖り起されて眼を開く、四時半なり、夫より日本人倶樂部の、會社主催の新年宴會に臨む、會は正五時の案内なるに五時半に近きに未だ來て居る人の影一つも見ねざりしが、六時になりてヤッと始まりぬ、八時に歸り前後不覺に朝までグー〳〵と眠りぬ、

新刊紹介

●朝鮮● 流石は一月號丈揷繪記事共に豐富に且つ趣味溢るゝ許りなり時事評論は至つて痛快に時局を評論し論說は幾多名士の卓說を收め其の他訪問錄主張人物評論雜纂文藝家庭等何れも讀むべしとなす(二卷五號一部廿五錢京城日韓書房發行)

●實業の世界● 實業雜誌としては殆んど間然する所なし殊に本號は新年號の事とて內容極めて賑やかに多種多樣の文字は讀者をして目迨に遑なからしむ重要記事十數種就中「今上陛下の御盛德清國大官を感激せしむ」を以て出色の文字とす(六卷一號一部十一錢東京三田商業研究所發行)

●新公論● 各名士の自白せる「腕白時代の追懷」は聞くからに面白く「世界三大强國の特長と日本」とは讀んで國民の意を强うするものあり(廿四年第一號一部十六錢東京本鄉東片町新公論社)

●樂界新報● 樂界名士の談話は讀んで益々得る所多く其の他の記事亦多大の參考となるべし(二卷一號一部十八錢東京小石川樂界新報社)

●時代宗敎● 「新に宗敎界を迎ふ」「極樂實在非實在論」「生靈と死靈」等は何れも痛快なる文字なり(四十七號一部五錢東京麴町區時代宗敎社)

●銃獵界● 號を逐ふに從つて記事体裁整齊せり時節柄出獵家の必讀を要す(四卷十二號一部十錢橫濱金丸銃砲店)

●新衣裳● 昨今流行の衣裳の模樣は鮮麗なる寫眞版と詳密なる說明とに依りて一目の下に瞭然たり時流を趁ふ男女は必ず一見すべき雜誌なり(八十一號一部十三錢京都上京區新衣裳社)

●商標公報● 昨年十一月五日より十二月二十三日に至る迄の登錄種別、氏名番號を記載せるものなり(一號一部十五號統監府編纂京城日韓書房發賣)



(九十三)

河合柳葉

大山は三輪子の室を出ると、ホッと太息を吻いて、直樣爲雅の室へ伺候した、すると傍には君子が居て、何か興ありげに笑つて居る所であつた、これは折角の興を醒すも氣の毒と思つて、其まゝ室を退らんとした時、

「大山何か用向か……差間へない近く進むがよい。」

と、爲雅樣に呼びかけられて、極惡しげに又御前に進むだ、

「何ちや、何か用向か。」

と、重ねて浴せかけられた、

「はい、少々申上げ兼ねる所がムりまして」

と、何か言惡ひ樣子である。

何事にも氣早き君子は早くも氣を利かして、

「私が居りましては差間ありますなら、彼方へ參つて……」

と、皆まで云はぬに、爲雅は、



「行かなくても宜しい、何か知らぬが差間は無い話せ話せ。」

促されて、今は是非ない事と、恐る〳〵

「實は只今御後室樣から、お召しになりましたゆゑ伺ひまするると、その何でございます、山川樣の事を種々とお尋ねになりましたゆゑ、どうせ永くお屋敷にお居でになるものを隱して置たとて益のない事と心得まして、斯樣云々と君子樣の兄上と申すことも、それならお屋敷へお居でになる事も、一伍一什をお話し申しました、致しまするとご御後室樣の仰やいまするには、設へお世話を申すにしても、召使などへの手前もあり、親戚などへ聞ゑても何だから、何處か相當の宅を搜して其方へ引移つて頂くやうに取計へと、斯樣に仰しやるのでございます、それ私一存にも取計らひかねまするゆゑ、一應御前樣に御相談申上げました上に致しまするると申上げまして、只今御免を蒙つた所でございまするが、如何計らひましたら宜しうござりませう。」

と、言上すると、爲雅は君子の意見なり山川の思惑が知れないゆゑ、君子の顔を眺めながら、

「そりや、屋敷の中に居るのは窮屈でもあらう然うした方が宜いかも知れんが、しかし始め山川に兄妹一緒に屋敷へ置くと云ふ約束したんだから、勝手に取計ふ理にも行かない、山川の意見を聞いて見なければならぬ。」

「如何にも御有理でござります、しますると御後室樣へ何と申上げましたら宜しうござりませう。」

「母上樣には、山川の意見を確めた上で私から申すから打棄てたけ。」

「左樣でござりまするか、それでは失禮にござりまするが、宜しくお取計ひをお願ひ申します。」

と、恐しく一禮して御前を退つた。

すると君子は忽ち甘へたやうな優しい聲で

「ねえ御前樣、兄は何と申すか存じませんけれど、別に宅などを持ちまするも私が初中終會ひに參る理には參りませず、又兄とても然う日々お屋敷へ參り通しにもなりませず、眞個私、心細いやうな氣が致しまするゆゑ、御後室樣へお願ひ下すつて、君が一生のお願ひでございます、どうぞ兄と一緒にお屋敷に居られるやうにお取計ひ下さいまし。」

と、拜むばかりに頼むのであつた。

廣告

京城新報

韓皇の民情視察

伊藤公の同行

統監政治に若し特色ありとせば宮中に對する改善なり。由來伊藤公は帝室に忠實なる政治家なり、伊藤公が帝國の政治に盡せる經歷に徵し來れば其然る所以を知るに苦しまず、其實地に實驗したる所を以て韓國保護の任に當る、故に他の施設に較して宮中政治に特色を發揮せるも亦宜べなりと云ふべし、今回の韓皇の民情視察の如きは最も慶賀すべき事なりとす、數百年來蟄居主義を取りし韓皇室の慣習を破りて皇室と人民とを接近せしむるの嘉例を啓きたるは將に余輩が公の勳績として讚歎を呈するに足る、余輩は昨年韓皇が統監鐵道貫徹の一として韓皇の地方巡幸を希望したりき、亦昨秋水原行幸の際に於ても再び之を繰返して地方視察の必要を說きたり、而して余輩は伊藤公に向ては地方巡視の必要を說きたること數回、一再にして止らず、韓國施政の改善に就ては中央よりも地方を重しとなす然るに之が大任を負ふ統監にして帝都にのみ蟄居し地方の狀態を實視せざるが如きは聰明なる伊藤公にも似合はざるまで極論したりき、今回伊藤公が韓皇に同行して民情視察を遂行せんとす、[illegible]巷間に傳はりて所に依ては[illegible]時節に遊寒せらるべしとの事なりしに、其事なくして却て老身を挺して此美擧に出づ、余輩は公が老來意氣益々壯にして眞に公が述懷の如く[illegible]々[illegible]、余輩は屢々權威[illegible]の實行せらるゝを見て[illegible]事を見るに至りし[illegible]然れども之[illegible]必要の前には何人と雖も反抗する能はず、韓國に於ける四圍の趨勢は公をして之を斷ぜしめたるのみ、公は歸任以來何等爲す所なく荏苒默移し政界の觀測者は殆ど倦怠せしめたり、此際に於て此擧あり一は韓國の人心を新にするを得、亦韓國に於ても公の殊績として多少其聲望を高からしむるを得ん、流石に公は政治家なり人心を新にするの術を會得せり、余輩は公の政治的經歷を回顧して眞に明治の才人たるを嘆賞せずんばあらず、余輩は之を想ふと共に今回の美擧をして啻に[illegible]に止らず、進て此美擧の精神を活躍せしむることを望まずんばあらず、之を換言すれば眞の民情視察たるの功果を收むる事なり、京釜鐵道沿線及京義鐵道沿線を見るのみにて眞の民情視察はなし得られざるべき乎、眞に地方農民の狀態を詳にせんと欲すれば鐵道沿線以外に出でざる可らず、細民の生活狀態農作の實況道路の險惡河川の荒廢等は百聞一見に若かざるの思を起さしむ、故に余輩は此美擧を好機として鐵道沿線以外の視察を實行せらるゝことを希望す、今尙ほ蜂起しつゝある暴徒の鎭定に於ても殊効あるべきなり、暴徒等にも韓皇の巡幸は多大の感激を與ふべし、然るに唯鐵道沿線のみにては單に沿道の風光を賞するに過ぎず、若し夫れ公にして眞に此美擧をして効果あらしめんと欲せば余輩の要論を容るゝの雅懷あるべきなり、余輩は此美擧を頌讃すると共に衷心より韓國統治に於て之が効果を奏せんことを偏に祈るのみ。

▲伊國皇后御負傷

ルーター電報

伊國皇后陛下は罹災民救助中二回目の地震のため御負傷あらせらる但し重傷に非ず而して兩陛下の勇敢なる御働きには臣民一同感泣せざるはなし（五日東京經由）

▲袁の歐州の輿論

伯林電報

袁世凱の免官は歐州諸島の新聞紙に贊成せられず淸政府が國政改革に反對する徵候となせり（五日東京經由）

▲拓殖重役渡韓

東京電報

東洋拓殖株式會社總裁以下重役其他來る十七日出發渡韓す吉原副總裁は少しく後るべし

▲勅題詠進

各府縣の勅題詠進は十二月三十一日迄に六千三百に達し十日締切迄には三萬に達すべし

▲金融益々緩和

新年に入りてより各銀行回收金多く金融益々緩和す一月中頃には日本銀行の公定利子も引下ぐ可し

▲吉原副總裁出發

吉原拓殖會社副總裁は俄かに期日を繰り上げ五日午後三時新橋發長田書記官を隨へ渡韓す

▲滿州守備軍交代

滿州守備師團は五日第八師團と交代す

▲宮中新年御宴

五日新年宴會には皇族以下內外臣僚四百五十六名を宮中に召し優渥なる敕語あり桂首相英國大使內外臣僚を代表して奉答し宴に移り種々御饌を賜はり入御あらせられたり

▲竹田宮妃御着帶

竹田宮妃殿下十四日御着帶式（九ヶ月）あらせらる（以上五日發）

雜　報

●韓皇行幸日程

韓皇には地方民情御視察の御思召を以て行啓の儀仰出されたるに就ては各大臣の陪從供奉日程を左の如く定められたり

七日午前六時四十分　御出門
同　午前八時十分　南大門御發輦
同　午後三時廿五分　大邱驛御着御一泊
八日午前九時十分　大邱御發
同　午前十一時四十五分　釜山御着御泊
九日　釜山御滯在
十日午前九時　釜山御發
同　午前十一時廿五分　馬山御着御一泊
十一日午前八時四十分　馬山御發
十一日午前十一時四十五分　大邱御着御一泊
十二日午前八時　大邱御發
同午後三時十分　南大門御着御還幸

▲隨行員　韓皇に陪從する伊藤統監の隨行員は村田、外波兩武官、古谷秘書官、國分、中山兩書記官、小山技師、藤波通譯其他屬官、警部等にて尙小松書記官は五日、高橋氏は六日、田中屬託、憲兵中佐山形閑同大尉荒木捨松の諸氏は本日先發として夫れ〳〵出發せり

▲宮廷列車陪乘者　宮廷列車陪乘者は義陽君、宮內大臣、侍從院卿、金、多田兩宮內大臣秘書官、李三侍從、魚、鄭、洪三侍從武官、趙承宰府總務、李承㥠侍從、高、劉、玄、李四禮式官、井上書記官、徐圭殿院理事、蜷內藏院理事其他高等官以下數百名なりと

▲行幸の先發員　李侍從院副卿、趙侍從、村上事務官、朴禮式官以下十三名は五日先發として出張、金侍從以下四十五名は六日大邱迄、桑崎、張氏外五名は七日釜山迄先行せり

●又々統監辭職說

韓國の經營は兎角伊藤統監の意の如く捗取らざるのみならず各省次官も今は韓國大臣に盲從するの已むを得ざる境遇に陷り且つ四圍の事情は思ふに任せず從つて國務更に擧らず、統監の初志は根本的に破壞せられたるも從來の行懸り上假に之を打破し能はざるを以て統監は韓國經營が一段落を告げたるを名とし、今春歸京の上は適當の後任者を撰定して、斷然其職を辭せん決心なりと傳へらる

●拓殖會社の創業

東洋拓殖會社は第一回の株金拂込及び創立總會を了したるに付、正副總裁、理事以下來る十五日頃渡韓差向き韓政府より三百六万圓の代償として提供せし田地五千七百町步、畑地五千七百町步の引渡を受け、京城に本社を南韓三道に出張所及び土地改良種苗、肥料の檢査場を設け拂込資金二百五十萬圓の一部を割きて金融業を開始する計畫なり

●本年度の繼續費

隆熙三年に於て新たに豫算に計上したる繼續費は百三十四万五千百九十三圓にして之れに既定繼續費を加算すれば其の總額は千六百七十五萬八千三百五十一圓なり而して此金額の內に隆熙二年度迄の支出額は一千七百七万七千百九十六圓にして隆熙三年度以降支出すべき金額は五百九十八萬千百五十五圓なり

●國庫豫備金

隆熙三年度に於ける國庫豫備金は百五十萬圓なり

●農工債券賣出成績

全國各農工銀行にて賣出したる舊臘の農工債券賣出しは頗る不成蹟に終れり締切迄の賣出額は左の如し

債券賣出額	六十万圓
締切迄に賣出に應じたる金額	
漢湖農工銀行	二萬五千九百〻圓
平安同	千八百七十圓
慶尙同	二萬二千二百六十圓
光州同	三千三百八十圓
公州同	三千四百八十圓
咸鏡同	六百圓
計	六萬一千四百六十圓

左の如く賣出に應じたるは賣出し額の一割以上[illegible]政府に於て引受くる[illegible]外に[illegible]追加せるも[illegible]の多少ありと云ふ

●伊太利震災光景

伊太利國の震災に就いては再三電報を以て報道せし如くなるが其の慘狀の光景は實に慘憺たるものにて殆んど眼も當てられず聞くだに悚然たるものあり今左に其の後の光景の大要を記述すべし

伊太利皇帝陛下は罹災民救助中地震あり陛下は負傷したまへり但し重傷にはあらず兩陛下殊に皇后陛下の勇敢なる御働きは伊太利全國民感激措からざる所にして罹災民は感泣し居れり、メッシナの被害者は今や殆ど運び去り陸海軍人と破壞された家屋に埋もれ居る者のみ殘れり埋もれ居る者は多く飢寒に堪へず死し居れり伊太利皇帝は本日カンテロを見舞ひ給へり同地方は一帶破壞し居れど救濟は滯りなく進行しつゝありとカセルタ及びチープルスの宮殿は罹災負傷者收容の病院に充てられたり、死亡者の數は如何に內輪に見積るも二十萬を下らずと云ふ救濟事業に從ふものにて慘憺たる光景に打たれ狂になるものあり又は覺えず知らず衣類を脫ぎて與へ病氣に罹るもあり、羅馬法王は更に二十萬弗の救濟金を賜ひたり伊太利首相は米人の同情と義捐金に對し大統領ロ氏に深く感謝せりと云ふ

●韓太子の許婚

太皇帝の日本行

韓太子の配遇者選擇に就ては豫て韓皇より伊藤大師へ一任せられある次第なるが大師は已に日本人なる某高貴令嬢を候補者と定め太皇帝及現皇帝の同意を得たるを以て今回の南韓旅行を了へ次第直ちに東上し諸般の準備を整へ東京に於て太子許婚式を擧ぐる都合なりとの事なり、右許婚式には太皇帝を始め李太子少師其他大臣元老等多數の參列者あるべき筈にて嚴妃は姙娠中故參列を見合せらるべしとの事なり

●吉原副總裁着期

東電所報の如く吉原拓殖副總裁は一昨五日新橋發渡韓の途に就きたるが當地着は八日の豫定なりと但し途中韓皇の巡幸に遭ひて入京延期となるやも計り難しと云ふ

●觀兵式中止

八日陸軍始めの觀兵式は龍山練兵場に於て擧行の筈なりしが都合により中止することゝなれり

●大韓協會と行幸

大韓協會にて今回の地方巡幸に關し此盛事を擧行するに突然の發布は內閣が地方人民に對して不親切なりとし適當の時機迄中止せられんことを上奏せんとの議論もありしが詔勅發表の今日それも不可なれば會長を[illegible]して陪從せしむべしとの說出でたるも經費百圓の出所なきためそも決定せずして散會せりと云ふ

●長谷川牟田兩將軍送別會

長谷川大將牟田中將は中旬頃轉任歸朝せらるゝに付三浦理事官熊谷民長の發起にて十日日出町小學校內にて盛大なる送別會を催す由贊成者は八日迄に民團役場へ申込まれたしと會費は[illegible]圓にして當日は紀念撮影をなし尙美麗なる會員名簿を調製進呈すべし

●長谷川大將の寄附

長谷川大將には去る四日大藤副官を熊谷民長の自宅に遣し左の書面を添へて金百圓を寄附せられたり

拜啓益々御淸穆大慶に存候陳ば拙者儀今回大命に依り歸國致候に付聊か留別の意を表する爲左の如く少額の金圓寄附致度候に付可然御取計被成下度此段及御依賴候　敬具

一金三百圓　民團立小學校へ
一金二百圓　同高等女學校へ
一金一百圓　同幼稚園へ

●行幸と巡査應援

韓皇の行幸に就き警視廳にては地方警察の應援として大邱及び釜山の各巡査五十名を派遣する筈にて大邱へは昨朝釜山へは本朝夫れ〳〵警部一名引率して出張せり

●守備隊の移動

忠淸北道丹陽分遣隊は十二月十四日撤去同永春分遣隊は十二月二十日に撤去江原道寧越中隊の主力を平昌に移し寧越に一小隊分遣せられたり

●獨逸領事の轉任

在駐京城獨逸代理領事ウェンジェ氏は淸國南京領事に轉任したり

●スカデル博士來京

アルゼンチン國スカデル博士一行（小見共十一名）は日本より韓國視察の爲め十三日釜山着直ちに入京しアストルハウス旅館に二日間滯宿し十六日朝新義州へ向け出發安奉線により奉天に至り歸途に就くべしと

●郵便配達の遲速

昨今配達せる郵便物は一月一日の日附あるものが既に配達せられたる後尙十二月三十日又は三十一日の日附あるものを配達することありて前後顚倒せし如き感あるに依り其の筋に就て糺したるに十二月十五日以後二十九日迄に特別取扱として引受けしものには凡て一月一日の日附印を押捺し一月初頭に配達を爲し三十日又は三十一日の引受は普通の扱ひとして引受當日の日付印を押捺し到着次第配達せるものにして配達の前後せしものにあらずと云へり

●蒸滊喞筒の試驗

仁川民團より曩に東京に注文したる蒸滊喞筒は舊臘末仁川に到着したるが仁川消防組にては昨日正午より仁川万石洞に於て水力試驗をなしたり

●拓殖假事務所

大藏大臣官邸內に[illegible]拓殖會社創立事務所は本月[illegible]より[illegible]內に假事務所を設けたり

●永濱關稅總長の出張

永濱關稅總長は[illegible]皇帝巡幸[illegible]釜山方面へ出張せりと云ふ

●新年の經濟界

（坂谷男爵談）

▲歐米の事情●　內地經濟界の如何は外國の經濟事情と關係するところ深きを以て先づ外國の事情より觀察せざるべからざるが最近に於ける外國の經濟狀態は大休に於て好望を示し殆ど悲觀すべき材料なし第一に米國の事情如何と云ふに大統領の椅子は依然共和黨に歸したるがゆゑに從來の政策に大なる變化を生ぜず同時に經濟界の狀態にも激變を及ぼすこと無かるべし又經濟の金融も最早常態に復し一般の景氣回復しつゝあるがゆゑに同國の經濟界が漸次好況を呈すべきは疑ひなきものゝ如し次に歐洲の事情如何と云ふに余が昨年歐洲諸國を漫遊せる際には不景氣の事實種々の方面に現はれ工場なども休業同樣の狀態に在りしもの尠なからざりしが其後次第に景氣回復して從來休業の狀態に在りし工場の機械も運轉せられ又金融も極めて靜穩にして夫の昨冬倫敦に發行せる日本興業銀行の社債及南滿洲鐵道會社の新債も應募の景況甚だ良好なりし等歐洲諸國の經濟界も頗る好調を示しつゝあり隨て米國の良好なる事情と相俟つて我國の輸出貿易も自ら振興すべし唯政治上已に附帶問題あり又印度南米等にも稍々の問題現はるゝが如きも是等は常に在り得べき問題にして格別重大視するに足らざるべし

▲東洋の事情●　轉じて東洋の事情如何と云ふに支那の凶變後一時政界に破綻を生ずべきを豫期したるも尠なからざりしも[illegible]之に反し且つ今後と雖も恐らく大なる動亂を惹起すること無かるべし殊に支那に對しては日英同盟あり日佛及日露の契約あり又日米の覺書もありて列國の足並整然たるものあれば政治上深く憂ふる事無かるべし唯だ經濟上に於て銅貨の濫鑄の爲めに內地の經濟界頗る疲弊せるが如きもこれも其後次第に整理せられつゝあれば景氣は自ら回復すべし銀價は最近に於て著しく下落し遂に廿一片臺に落込みたるも之を既往の事實に徵すれば過去十數年間に於て概ね二十七八片を中心として上下しつゝあり恐く二十二片といふ相場は其の底値と見て然るべく今後は次第に騰貴の趨勢を見るに至るべし從て之が爲に支那の商業も復し我對淸貿易も漸次好況を呈すべきを豫想せざるを得ず

▲內地の事情●　更に內地の事情如何と云ふに戰爭以來陸海軍の臨時費が漸次減却すると共に此れに關係せる各種の事業も次第に變化して平時の常態に復歸するとなり又投機熱後の事業界の動搖も次第に整理せられて漸く健全なる狀態を呈するものゝ如くなれば最早內地の經濟事情も別に憂ふべき材料なく且つ陸海軍其他の政府の事業も一時に比して大に縮少せられたれ[illegible]に著しく輸入貿易を增加すること[illegible]し又近來政府は力めて節儉の方針を[illegible]るがゆゑに之が爲めに一時需要供給に多少の變化を來すことあるも終局に於て良好の結果を見るべきは疑を容れず即ち內地の經濟事情に於て最早[illegible]く外國の事情を觀察するときは益々好況を呈[illegible]情勢を觀察するときは勢ひ我經[illegible]に好望を屬せざるを得ざるの結論

●敍任辭令

宮內府書記官　井上雅二
同　津輕英麿
宮內府大臣秘書官　金東完
同　事務官　金觀鎬
侍從院侍從　朴善斌
陞一級俸

●[illegible]片々

▲日誌●　戰役以來韓國統治に至大に功勞ありし長谷川大將榮轉は日韓の爲に惜む可し

▲統監●　の背後に長谷川大將ありて能く帝國の威嚴を崇重たらしむ今後尙は必要あり

▲大將●　は威容の堂々たるのみならず膽氣全身に滿つ韓人等皆窃かに威服せざるなし

▲日韓●　第一協約にも第二協約にも大將の統監に聲援を與へたるは何人も知悉する也

▲大將●　劒を按じて大觀亭を出づれば如何なる纏綿の事情も裁斷せらる其狀眞に偉也

▲一度●　叱咤すれば虎伏し狼怖く平時の溫顏は兒童もなづくとは大將の如きを云ふ乎

▲故に●　韓人等も威服しつゝ大將を慕ふと云ふ軍人の好摸範丈夫の本領將さに茲に有

▲大久●　保大將長谷川大將に替りて駐剳軍司令官となる大久保將軍亦好箇の軍將なり

▲然れ●　ども韓の事情を知るまでには多少の歲月を要す茲に於て長谷川大將を惜む也

▲統韓●　政策上統監の交迭すべからざるが如く司令官の更迭も亦望ましき事に非ざる也

▲日露●　戰役以來長谷川大將は司令官として能く韓の事情に精通せり眞に以て惜むべし

▲間島●　問題も風說の如くつまらなく解決すべしとは甚だ心細し之が外交の刷振にや

▲[illegible]理●　由は斯る小問題にて淸國官民の感情を害するは得策ならずと理由は只之れ耳

▲[illegible]斯●　にして淸國の主權を認識するに至ては外交なるもの更になし讓步々々限なし

▲何事●　も小問題として讓步すれば帝國の發展何處にかある列國に對し甚以て耻かし

▲袁世●　凱の免官は淸國政界の一變潮なり之れ醇親王派と慶親王派との軋轢の前徵乎

▲袁氏●　は淸國政界の大立物忽然として免官せられ慶親王亦職を辭す前途の形勢如何

▲北京●　政界靜穩の裡面には頻に暗流迸れりとは片々の憂慮せし所俄然今此事あり矣

▲此變●　潮は帝國の對淸策に就て如何なる影響や來るべき決して樂觀すべきにあらず

▲巴爾●　幹の形勢も今尙穩ならず英露協和して獨逸の勢力を驅逐せんとする摸樣あり

▲土國●　新議會を開き土帝臨御して一場の演說を試む爲に國民の感情融和せりと云ふ

▲土帝●　の風采動作優美にして眞に帝王たるの面影ありとて代議士等皆感動したりと



史談

●義士討入と白石（土屋主税の態度）

赤穂の義士が吉良上野介の邸へ押寄せたとき其隣邸土屋主税方へ、義士の一人吉田忠左衛門より使者を以て、淺野内匠頭家來共亡主の無念晴さんため只今吉良上野介殿御邸へ押込み申候、騒動に及ぶべく候間、前角御案内申上げる、士は相見互ひの義にて候へば、御構なく御討たせ下されたしと申入れた▲土屋これを聞きて委細心得たる旨返答に及びさて、家令共に吩咐け、塀際へひしと提灯さし上げ其下に射手を揃へ、萬一塀など乘越ねて來るものがあらば射て落すべしと、嚴重に指圖して自身は床凡に腰掛け、悠然と構ね込んで居たが、隣邸のことであるから討入の樣子が手に取るやうに耳に入る▲最初の内は障子戸などを打破る音凄じく聞ねたがやがて殘念な事した、取逃したと見ねる、方々尋ねたが見ねぬなどゝ、口々に罵り合う聲がすると、イヤせく事はない見ねなければ、明日一日掛つても尋ね出せ隨分心都かに搜すがよいといふのは吉田忠左衛門らしかつた、良あつて有樣に申さぬかと、誰やらん大音に罵れば額の疵を改めよといふ聲がそれに、續いて聞ゆると間もなくわつといふ大勢の泣聲が揚つた、これが本望遂しての嬉し泣であつたらしい▲兎角する中に忠左衛門よりは再び土屋主税方へ使者を以て只今上野介殿を手に入れ首尾よく御しるしをあげ申候、狼籍の段是非に及ばざる義とは申しながら御迷惑と存し奉る、右御案内のため申上げると挨拶に及び、その儀勢揃して引上げた▲其翌日新井白石は主税の處へ見舞に行つて親しく前夜の光景を聞取り四十七人の仕方殘る處なきに痛く感入りこれを室鳩巣に話した處が鳩巣のいふには四十七人の仕方は如何にも殘る處なく、感心千万の次第あるが、土屋殿のなされ方は如何なものであらう御了簡の程承りたいさの事であつた▲白石答へていふやう、それは尤もの御不審、君父の仇は討たせるが法である、殊に先方より禮を盡して、士は相見互の事なれば討たせ吳れよと斷りに及んだ上はその敵手になつて兎や角と支ね立てする譯に行かぬ、但だ二度目に使者を起した折、大石なり吉田なりに面會して、各方存念通り致された上は各方の內重立ちたる衆一兩人、こゝに御殘りあれば、我等一分の申譯相立ち候、最前御申聞けの通り、士は相互ひの義なれば、我等の身になりて御覽下さるべく、無体に引上げられ候ては、我等一分立ち申さゞる事なれば此段御[illegible]に預りたい斯ういつたなら大石程の者であるから快よく承引するに相違ない、其處で三八を預り置いて、其他を引退かせたなら首尾殘る處なき尤なる仕方と申すべく、万一それにて承引せず、達て引上げんといふなら、主税殿の不仕合と申すものにて、四十七人を相手にするより外は無かつたのだ云々

●韓皇帝健康御恢復

▲皇后この御語らひ

韓皇帝には御壯健の頃の御健康を害せられ給ひし皇后との御語らひさへ御意に任せられざるやに承り居りしが近來に至り健康大に御恢復相成り時々皇后の御室をさへ見舞はるゝに至れりと洩れ聞きけるが[illegible]の御許婚もある筈なるが[illegible]茲に皇帝の健康御恢復を傳ふ、新年早々韓皇室の斯くも芽出度御榮へ行くを報ずるは記者の甚だ光榮とする處にして、昌德宮内に巣くふ老鶴も資に皇室の万歲を祝し舞ふらん

●抱川の暴徒蜂起

△三百餘名の大集團　△日本兵一名即死す

京畿道抱川郡外北面（京城より八里半）に約三百名の暴徒蜂起し元陸軍參尉金某なるもの之を指揮し自ら義兵と稱し民家に至り金穀を掠奪し頗る猖獗を極め、討伐に向ひたる我兵中一名即死一名負傷せりとの報或る筋に達したりと

●江華島の秩序回復す

▲暴徒各地に逃走す

仁川署管內江華島に於ける暴徒は曩に首魁李能坤が京城に於いて縛に就きたる以來殆んど鎭撫したる模樣にて其の殘黨の襲來し來るが如き氣配は更になく目下の所にては今一人の首魁池洪一を始め其の他の殘徒は我討伐隊の掃討激甚なる爲め殆んど身の置き所もなき程の窮境に陷り各良民に紛裝して各所に遁走せんとしつゝある由なるが我討伐隊亦八方に手を配り彼等殘黨の捕縛に腐心しつゝあり既に十數名の多きを捕縛し昨日又一小首魁李俊甫と云ふを縛し仁川署に引致したりと云へば江華島の全部穩に歸するは近きにあるべしと云ふ

●醉漢の大立廻り

當地大平町一丁目パン製造業相川彦一（二十五）同人弟相川留一（二十）及び長谷川町一丁目平山權八（四十八）の三名は北米倉町松の家に於て去る三日の午後十一時頃より翌午前二時過迄底拔け騷を爲し歸宅せんとする際留一が下駄を踏違へたるより同亭の主人上田外二郎（三十三）が承知せず双方共酩酊し居ることゝて互に喧嘩を初め彦一も弟に加勢しランプを打碎きて眞暗闇とし三人入亂れて大立廻りを演じたる結果彦一及留一の兩人は數ヶ所に負傷した

るが此騷ぎに憲兵出張し夫れ分遣所に引致の上南部署へ引渡されたり

●警官に反抗す

龍山榮町川本續次方理髮職馬場崎平太郎（三十）明治町一丁目理髮職吉本福次郎（二十）の兩人は共に素行宜からざる男なるが一月五日の夜十二時頃本町一丁目の道路に於て酩酊の上喧嘩を爲し居たるを巡廻中の警察官が之を認め制止せんとせしに却つて警官に反抗し亂暴を爲したるに依り南部署に引致され火の出る樣なれる目玉を頂戴して引下る

●不良水の取締

近來井戸水を水道水と僞稱し市民を瞞着して不正の利益を貪るものある由南部署に聞込み、同所にては是等に對して嚴重なる取締を爲し發見次第容赦なく處罰[illegible]方針なり

る[illegible]の數は百九十三人にして此營業者は千六十一圓八十五錢にして此內最も多きは[illegible]春樓の三千五八百九十一圓二十五錢也と

●催眠治療の開業

本町六丁目大和商會裏に今回開業したる弘顯病院は催眠及び無痛催眠にて齒痛、子宮、脚氣其他如何なる病氣をも治療して頗る特効あり、且つ催眠治療は家族其他の立會を求めて爲す筈にて此程桐原南部署長は之を實驗せしに此治療は秘密なきを認むと言明されたりと尚は治療料は至極廉價を旨とし貧民には無料施療する筈

●[illegible]粉の流行

[illegible]年一層原料を精選したる結果其の賣行は數十倍の好況を示せり紳士間にも盛んに賞贊せられ年始の贈答品として好適品なるより上流婦人間[illegible]め居れり此の上とも製造に充分注意して顧客の同情に酬ゆる由

●情歌紘

魚友痴史

▲上・加・減・
目出度朝酒猪口酉の春　れ姻の熱つきも上加減

▲京・城・新・報・
生れ變つて又新らしく　氣ねんはく手の御喝采

▲御・題・雪・中・松・
雪よちら／＼綿繊飾り　隱くれみの着た門の松

▲酉・の・春・
十二年目で又巡り逢ひ　嬉れし鳴きする鷄の春

▲屠・蘇・の・醉・
れ目に掛は今日初年の　容貌も赤らむ屠蘇の醉

▲松・竹・梅・
ぬしを松竹軒端の梅も　笑顏で迎へる花のはる

●演藝たより

▲本町座の酒井政俊一座は初日以來毎日大入札を掲げ人氣を一座に集注し居れり▲壽座高野屋一座の喜劇も非常の好人氣にて婦人連の見物多く今夜の藝題は前が肥後の駒下駄にして後が八百屋お七なり▲歌舞伎座の伊井一座は既に正劇ものを演じて本町座に對抗し好評を博し居れり▲龍山座の千島小次郎仁川竹園館の大八一座の娘義太夫、同歌舞伎座の扶桑軒の浪花節何れも好評なり尚ほ本町座今夜の狂言は百年の仇全七幕にして重なる役割左の如し

署長佐伯進（石燈）下女おまつ（堀江）惡漢金太（吉井）お玉父由左衛門（松村）鹿野松二郎（田宮）インバイお時（藤原）惡漢長吉（福井）盜視山田貞雄（秋岡）番頭忠七（櫻木）探偵長鹿野瀧三郎（佐海）松二郎の乳母おいく（阪本）巡査村井二郎（菊地）インバイおやす（島村）原田部長（中村）壽婦白[illegible]お玉（酒井）

●主家の名義を騙る

仁川宮町三丁目秋吉商店の雇人岡山生れの片岡鹿太郎（十七）と云ふは昨年末主人より解雇せられたる以來一定の居所なく諸所を徘徊し居る中不圖惡心を起し主人の名義にて知り合の家より品を借りて質入なし居たること主人の耳に入りたれば秋吉方にても八方に手を配り其の居所を搜索し居たる所一昨日鹿太郎が壽町二丁目を徘徊し居るを主人秋吉に認められ直に警察に突き出されたるが取調べの結果元職なき爲めかゝる惡心を起したるものなることに判明したれば將來を戒しめて放還したりと

●韓人のへべれけ

[illegible]方下人李相俊（二十）と云ふは一昨日午後十時半頃へべれけに酩酊し永樂町二丁目に於て通行中の錢淡吉（十七）と云へるを引捕へ喧嘩を爲し居る處を警官に認められ南部署に引致され醉の覺むる迄留置かる

●一昨夜の新町遊廓

元日以來新町の繁昌は[illegible]農商工部大臣趙重應[illegible]昌は素破らしきものなるが一昨夜繰込んだ

●歌留多會の場所

我社有志及び鐵道通信兩管理局有志の主催に係る京城歌留多大競技會は會場の撰定に付きて非常に苦心しつゝあり、何分競技者以外多數の傍觀者もあるべければ會衆は約三四百名の豫定なるを以て種々詮衡の結果**南山下本願寺**なればと結定はせしものゝ夫れを同寺に於て快く承諾せらるゝや否やは勿論疑問なるより予は委員代理として昨五日同寺を訪問して希望の主旨を申入れたる處昨冬來院代不在中にして諾否即答は致し難きも今明日中に歸院せらるべければ御伺の上御返辭致すべし尚自身に於ては精々同情を以て御談合致し置くべしとの御役僧の答辭を得たれば必ず滿足すべき回答に接すべきを信ずれども何れ確定の上報導すべし（六日むら記）

●天氣豫報（自六日午後六時　至七日午後六時）

南西の風[illegible]

氣象概況　廿二日午前六時[illegible]の氣壓の配置前日と大差なく依然緩慢にして風力弱く一般に曇天の所多く元山に降雪しつゝあり

▲無料紹介欄▼

人事部

●韓語速成教授 本町六丁目六五韓語速成講習所
英韓語無料教授自午後六時至九時永樂町三丁目二十一番戶ノ四 上田生（一二）

二十歲迄の店員五名身元保證人ある者雇入たし 姓名在社（一一三）

●雇はれたし 年廿六西洋料理に熟練旅館料理店又は素人家にてもよし給料不望確實の保證人あり 氏名在社（一一四）

呉服商に經驗ある者に至急面會したし（係）

店員入用 十五六才以上身体强健普通教育あり身元保證人を要す 龍山元町三 三並金物店（一一九）

書籍注文取入用 月收二十五圓以上あり服裝の見苦しからざる者數名採用委細來談 姓名在社（一三〇）

小僧入用 十五六歲の者二名至急入用相當希望の方は本人直接來談あれ本町三丁目四ヶ所洋服店（一三四）

下男一名女中一名十七歲以上二三歲迄至急雇入たし南山町一澤田館にて小谷（一三七）

下女二人雇はれたし 明治町二ノ二四八、後藤方（一三六）

物件部

貸間 旭町一丁目便利の場所にて六疊二間二階貸したし望の方は御來談被下度候 旭町一の六十京仁商會（一二一）

二階建新築家屋上六疊、四疊下七疊半、二疊外臺所押入及厠あり疊建具一切完備用水に便なり家賃一ヶ月貳拾參圓 明治町二丁目 藤田合名會社（一三二）

ぬいもの 廉價にて可嗶に御仕立申します 布德門前宮本（一三三）

佛清 兩語翻譯の依賴に應す 氏名在社（一三三）

倉庫或は空地至急借受たし但平地にて馬車の通行する所を望む 京城永樂町二今福商會（一三五）

廣告

開店披露

染地手拭太物製造販賣
印入手拭風呂敷御誂品ハ美麗ナル包紙ヲ無代進呈ス

允 坪屋足袋製造販賣
四ツバセ千鳥縫ノ別製品

關戸蚊帳株式會社特約店

龠 羅紗インバコート服類販賣元

㊍ びん付石鹸一手特約店

舊臘十二月五日全部品揃開業致し候間賑々敷御來店御買求下され度願上候
明治町一丁目（元帝國一跡）

允 桑原久藏商店
電話四八三番
（電略ヤマク又ハ（ク））

龍山旭橋通り
桑原支店
電話百十二番

石炭直輸入

（ストーブ用は一俵以上配達可仕候）

京城旭町一丁目
島與商會出張所
取次（電話七四五番）

▲轉宅荷物運搬

（京龍間建築土木材料其他諸貨物の運搬及び人夫請負）

弊店儀今般右の營業を開始仕候に付ては貨物の多少又は土地の遠近に拘はらず御報知次第直ちに店員を派出して御用命に應じ可申尙ほ弊店は責任を重んじ万一御委托物に對し店員の不注意より損害を加へ候節は弊店に於て其賠償の責任に決して御損失は相掛申間敷候間續々御用被仰付度此段謹告候也

京城南大門通り二丁目二十番戶三浦商店向側
有田運送店
店主 有田豐太郎

京城日本人俱樂部を自今

京城ホテル

と改稱致し候

南山町三丁目
電話一一三番



最近新形 インデペンデンス

甲革ハ柔軟ニシテ耐夫ナル（…）クローム製ハボックスカーフ（…）洋ゴム製（…）

▲慶應義塾生諸君ノ御用品▼
今般製出ヲ增加シ一般ノ御需用ニ應シ候

詳細御注文品目錄寸法用紙御報次第御送呈ス

慶應義塾御用
東京市芝區愛宕下町四丁目
振替貯金口座四二七八番
電話新橋三四〇二番
龜田靴商店

大 ⌂ 薫

特約販賣 自製

漬物 味噌 醬油 製造元

和洋酒、の精酢、穀物麵類銘茶、罐詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、壚辛各種特約販賣
尙御望に依り商品切手調進仕候

京城本町五丁目

大上商店

（電話二五一番）

梅毒、癩病、橫痃、痔生殖器、皮膚病專門

京城皮膚病梅毒院

南大門驛入朝市場裏第壹銀行舍宅橫通
米倉町度支部官舍下角

免許 灸專術治療

梅毒、子宮、胃病、腦病、脚下マラリヤ、眼病、リヨマチス、神經痛其の他諸病に効能確實

本町七丁目北入花園町
むつ灸治療所
青木直太郎

鴨綠江特種木材九州セメント取次販賣

末口一尺八寸以上長さ五間迄其他各種材

京城旭町三丁目
建築業 柴田芝六
電話五六八番

內外科 小兒科 花柳病
富久尾病院
京城旭町一丁目

產婆開業
明治町一丁目五十九番戶
中島圓子

土地家屋 金錢貸借 人事物件
雇人口入業
東屋
南大門通二丁目十三番戶

韓日倉庫組
稅關貨物取扱

西洋料理
東京高輪壽し
會席料理
丼類いろく
折詰辨當

南大門停車場構內
同 サンドーウヰッチ
エーテー淵田

待合 嬉野
京城永樂町一丁目
取次電話三〇九

和洋 暖爐販賣
並に附屬品一式
煙突取付請負
京城本町五丁目一番戶
馬木勇吉
電話四七一番

入院隨意
京城壽町三丁目元阪井病院跡
高井醫院
（電話二二六番）
院長 陸軍三等軍醫正 高井貞治

●土耳古煙草直輸入大販賣●

本社ハトルコ最大貢製造會社ニシテ其製品ハ原料精選其風味ハ良好無比ナレバ夙ニ世界各國ニ最多ノ輸出ヲナシ好評ヲ以テ迎ヘラレツ、アリ卸小賣トモ廉價ニ販賣仕候

京城本町四丁目角 仁川港本町通 仁川代理店
デーエス、パチリス會社出張所
額原兄弟商會

京城本町壹丁目



營業品目

▲和洋雜貨類▼
○和洋文房具卸小賣
○測量製圖器械尺度類
○最新式眞筆 謄寫版發賣元
▲諸官衙用達▼

（…）店

一ヶ月八圓の下宿

黃金町
統明館
（明治町突當り）

◉支店開業披露◉

御一人前
一かしわ 二十錢
一牛肉 同 十二錢
一海魚 同 二十錢
一茶碗むし 二十錢
一親子丼 二十錢

すき焼

京城明治町一丁目元菊紋跡
㊄ 仁川支店

諸印刷 名刺 ハガキ

京城南門通り
仁川活版支店

高等待合 紅葉

開業御披露

京城南大門通三丁目起業會社筋向

統監府御用
諸官衙人力車
荷物荷造及運搬

伊藤組

營業京城曙町（電話七三番）
本店同本町三丁目（電話四〇番）

●寒氣と牛乳
●牛乳と消毒

韓國畜產株式會社
南大門外（電話八八番）

銀行事務一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金 參百萬圓
積立及繰越金 八拾萬圓

京城南大門通
株式會社 十八銀行 京城支店
（電話四二〇）

本店 長崎市築町
支店 出張所
京城、龍山、仁川、木浦、釜山、元山、羅州、群山
大阪 熊本 佐世保、鎮海 五島、壹岐

韓國 日本

其他日本、韓國樞要地、及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金
一口壹錢以上何程にても御預り申候
（利息日步壹錢四厘）

長崎貯蓄銀行代理店
（十八銀行京城支店）

銘茶 (…) 京城本町三丁目

（…）郵船會社 仁川出帆廣告
（…）及船客取扱店
電話十二番

仁川海岸通
郡岡商會
電話三九番

京城南大門通
巴商店
電話三〇六番

釜山長崎門司神戶行 山東丸 月 日後三時出
大連行 高砂丸 月 日後一時出
大連、芝罘、秦皇島行 山東丸 月 日前五時出
大連行 酒田丸 月 日正午出
釜山出帆、浦鹽行 立神丸 月 日

御注意 御乘船ノ際ハ棧橋波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ事

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一圓四十錢▲廣告五號活字十九字詰一行金五十錢

發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新報社
京城西署西小門通
電話六六三番